

(対象事業：地域連携強化事業) 地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業
・国際交流拠点形成事業)

事業名： わくわくワークショップ

事業者名：財団法人 切手の博物館

住 所：東京都豊島区目白1-4-23

TEL：03-5951-3331

FAX：03-5951-3332

HPアドレス：<http://yushu.or.jp/museum/>

連携事業者名：豊島区児童館・子どもスキップ／
豊島区民ひろば／豊島区立心身
障害者福祉センター／豊島岡女子
学園／日本女子大学

会 場：切手の博物館および連携各館

事業期間：平成22年5月22日～平成23年1月31日



1. 館の使命と本事業の関係

本事業は、文部科学省委託事業「地域子ども教室推進事業(「子どもの居場所づくり」キャンペーン)」として平成16年度に始まり、委託期間終了後も、郵便切手文化の振興と発展に寄与することを使命とする切手の博物館固有の事業として館内・館外ワークショップの形で続てきた。

インターネットの広がりとともに切手に触れる機会が少なくなっている中、「切手はり絵」というワークショップを通して、切手の歴史を知り、これまでに発行された切手を見たり、実際に触ったりすることで、切手に親しみを持ち、郵便切手文化への理解を深めてもらう機会を創出する。

2. 企画内容

I. 事業目的

古切手を使って作る「はり絵」は、幼児から高齢者まで、年齢に応じた楽しみ方があるため、誰もが創造の喜びを体験することができる。高度な印刷技術による切手特有の色彩美に接することで、参加者を新しい創造の世界に導き、身近なアートを楽しんでもらう。また、ワークショップの場で切手の歴史に触れ、日常では目にすることのない非常に数多くの切手を実際に見て、触って、知ることにより、郵便切手文化に親しく接する機会となり、郵便切手文化が、日常生活での楽しみや知識の場を広げてくれる特質があることを知ってもらう。

さらに、本事業を通して郵便切手文化を伝えるボランティアを育成する。ボランティア育成により、博物館活動を活性化し拡充させるとともに、地域との連携、つながりを深める。それによって、当館が地域に根ざした文化活動・学習活動の拠点として、地域社会に寄与できる施設となることを目的とする。

Ⅱ. 事業概要

- ①郵便切手の成り立ち、切手の種類、使用済切手(古切手)と社会貢献、といった切手文化を紹介するパンフレットを製作し、ワークショップで活用。
- ②夏休みに親子参加のワークショップを開催
上記パンフレットを、ワークショップにおける導入部として使い、実際に古切手を使って、ミニアート作り「切手はり絵」を体験。
- ③近隣施設での出張ワークショップの開催
(②と同様の活動を出張ワークショップの形で実施。)
 - A. 豊島区内の児童館・子どもスキップ
 - B. 豊島区区民ひろば
 - C. 豊島区立心身障害者福祉センター
 - D. 近隣の中学校・高等学校・大学学園祭
- ④豊島ボランティアセンターおよび近隣の大学を通してボランティアを募集し、ワークショップを支える人材として育成。

<研修内容>

説明・講義…①当館の使命 ②切手の歴史と切手の取扱い方 ③古切手と社会貢献

④活動に関しての基本的な留意点(対応のポイントと接遇)

実習…①切手の“水はがし”と切手の区分け ②切手はり絵作り

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

- ①切手文化を紹介するパンフレットを製作
■制作数 600部 ワークショップで配布
- ②夏休みに親子参加のワークショップを開催
①のパンフレットを導入部で使用。材料として100種類以上の古切手を用意。それらを使った「切手はり絵」の制作
■8月13日 切手の博物館3階 参加者137名
- ③近隣施設での出張ワークショップの開催
■7月21日～9月25日
豊島区内の児童館・子どもスキップ
17回 参加者254名
■10月15日～11月15日
豊島区区民ひろば
豊島区立心身障害者福祉センター
12回 参加者97名
■10月23日～11月7日
近隣の中学校・高等学校・大学学園祭
2回 参加者41名



パンフレット(左)、切手はり絵制作の様子



材料となる古切手

④ボランティアの育成

■7月17日～18日

第1回ボランティア研修会 参加者15名
主に、児童館や子どもスキップでの出張ワークショップに参加

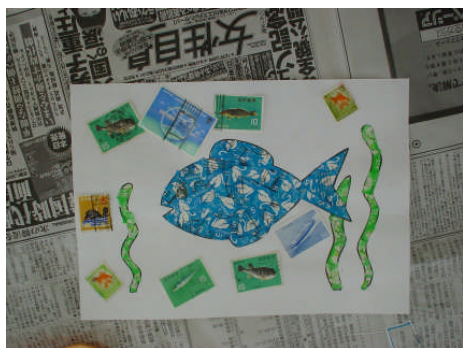
■10月9日～10日

第2回ボランティア研修会 参加者11名
主に、区民ひろばなどへの出張ワークショップに参加



区民ひろばにて開催の様子 高齢者、乳幼児の親子

※打ち合わせを計3回行う
出席者 計19名



出来上がった作品の一例

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ 529 人

(3) 事業により作成した印刷物等

■チラシ・・・・・・・・・・1000部

近隣小学校・児童館等へ配布

■パンフレット・・・・・・600部

ワークショップでの配布



パンフレット「切手の旅」

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○テレビ、関連誌等

雑誌「Hanako」 池袋特集

2010年11月11日号

マガジンハウス

2010年10月28日発売



4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

児童館や子どもスキップでは、ワークショップの材料となるさまざまな切手を、子どもたちが実際に見て触って、作品を制作しながら、切手に描かれているものや、郵便料金などについても質問が飛び交った。事前研修を受けたボランティアとのやり取りを通して、郵便や切手を身近に感じる機会となった。今回パンフレットを制作したことで、それを作品とともに持ち帰り、各家庭で話し、参加した子どもだけでなく家族で体験を分かち合う一助となっていればうれしい。

また、なかなか博物館へは足を運んでももらえない高齢者の方、乳幼児の親子には、地元であり日頃親しんでいる施設である区民ひろばでワークショップを開催することによって、参加してもらえる機会となり、大変喜んでもらった。参加者からは、本当に楽しい、またやりたいとの声が聞かれた。切手の色が美しいとの感想ももらった。また、当館開館のときには訪れたが、それ以来行っていない、機会があれば久しぶりに行ってみたいと話された。

ボランティアは、学生、社会人、定年退職後の中高年とさまざまな層の方が集まった。この事業の期間のみ参加の方もいたが、その後、継続して博物館のボランティア活動に携わる方を獲得できたことは大きい。例年は、児童館、子どもスキップのみへの出張ワークショップであったが、ボランティアの活躍により、多岐にわたる活動ができた。

今年の活動を終えた後、児童館、子どもスキップ、区民ひろばから、来年も同様に出張ワークショップを開催して欲しいとの要望が寄せられた。本事業を通して活躍したボランティアと協力し、この事業を継続させていくことが課題である。また、現在はまだ館のスタッフを中心としたワークショップの運営だが、今後はボランティアが主体となりワークショップを運営できるボランティアリーダーを育成し、よりボランティア活動を活性化させたい。

今後も、少しずつ地域住民の方に博物館の活動、ボランティア活動への理解を深めてもらえるよう努力し、ワークショップへの参加とともにボランティア活動への参加も促すよう地道に進めて行きたい。